

平成26年6月6日  
西日本高速道路株式会社

## 平成26年3月期 決算概要

### 連結決算概要(経営成績)について

(単位:億円)

区 分	H26/3 期 実績 (A)	H25/3 期 実績 (B)	増減		
			(A)-(B)	$\frac{(A)-(B)}{(B)}$ %	
営業収益	高速道路事業	8,287	6,723	1,564	23.3
	料金収入	6,053	5,853	200	3.4
	道路資産完成高	2,204	836	1,368	163.6
	その他	28	33	▲ 4	▲ 13.6
	関連事業	578	607	▲ 28	▲ 4.7
	SA・PA事業 <sup>※2</sup>	347	346	1	0.4
	その他の事業 <sup>※3</sup>	230	260	▲ 30	▲ 11.5
	8,866	7,330	1,535	21.0	
営業費用	高速道路事業	8,298	6,704	1,594	23.8
	道路資産賃借料	4,263	4,092	171	4.2
	管理費用	1,800	1,776	23	1.3
	道路資産完成原価	2,235	836	1,398	167.3
	関連事業	522	565	▲ 42	▲ 7.6
	SA・PA事業 <sup>※2</sup>	285	284	0	0.2
	その他の事業 <sup>※3</sup>	237	280	▲ 43	▲ 15.4
	8,821	7,270	1,551	21.3	
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	▲ 11	18	▲ 29	-
	関連事業	56	41	14	34.2
	44	60	▲ 15	▲ 25.7	
経常利益	61	85	▲ 24	▲ 28.1	
当期純利益	34	64	▲ 29	▲ 45.9	

※1 当社グループは、当社及び連結子会社27社、持分法適用の関連会社等7社で構成されており、高速道路事業、SA・PA事業、その他の事業を行っております。

※2 「SA・PA事業」とは、高速道路のサービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)における飲食・物販及びその不動産を賃貸する等の事業をいいます。

※3 「その他の事業」とは、受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。

## 高速道路事業トピックス

- 当決算期の当社管内の高速道路の通行台数は、我が国経済の緩やかな回復基調のもと、前期比 4.5%増加し、282 万台/日となりました。
- 営業収益のうち、高速道路料金収入は、交通量の増加により、前期比 200 億円増の 6,053 億円となりました。
- 道路資産完成高<sup>※1</sup>については、京都縦貫自動車道（沓掛<sup>くつかけ</sup>インターチェンジ～大山崎<sup>おおやまざき</sup>ジャンクション）や東九州自動車道（日向<sup>ひゅうが</sup>インターチェンジ～都農<sup>つの</sup>インターチェンジ、苅田<sup>かん</sup>北九州空港<sup>きたきたきゅうくうこう</sup>インターチェンジ～行橋<sup>ゆくはし</sup>インターチェンジ）などの完成があり、前期比 1,368 億円増の 2,204 億円となりました。
- 一方、営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加に伴い、前期比 171 億円増の 4,263 億円となりました。
- 管理費用については、道路施設点検費や新規供用に伴う料金収受業務費、厳冬に伴う雪氷対策費などの増加に伴い、前期比 23 億円増の 1,800 億円となりました。
- また、当期においては、高速道路における安全性確保のための所要の事業として、道路構造物にかかる緊急修繕を早期かつ確実に実施するため、その一部を利益剰余金活用事業<sup>※2</sup>として、道路の安全性・耐久性の向上に資する工事など 30 億円を実施しました。
- 以上のことなどから、当期における高速道路事業の営業損益は、前期比 29 億円減の 11 億円の赤字（営業損失）となりました。

※1 道路建設にかかった経費と同額の債務を機構に引き渡すため、後述の利益剰余金活用事業を除き、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。

※2 利益剰余金活用事業とは、高速道路事業に係る利益剰余金を活用して機構に帰属する道路資産を形成し、債務の引渡しを行わない事業のことをいいます。この事業の実施により、道路資産完成原価が計上されますが、道路資産完成高は計上されません。（費用のみ計上される事業です。）

## 関連事業トピックス

- S A ・ P A 事業については、営業収益、営業利益ともにほぼ前期並みの水準となり、営業収益は 347 億円、営業利益は 62 億円となりました。
- 関連事業全体の営業収益は、国などからの受託事業の収益が減少したことなどにより、前期比 28 億円減の 578 億円となりました。  
また、営業利益は、グループ会社の外販事業の増益などにより、前期比 14 億円増の 56 億円となりました。

## 全事業の業績について

- 以上の結果、営業収益（売上高）は、高速道路事業が 1,564 億円の増収、関連事業が 28 億円の減収となり、全事業では前期比 1,535 億円増の 8,866 億円となりました。
- 利益面では、利益剰余金活用事業の実施による高速道路事業の減益が大きく、全事業の営業利益は前期比 15 億円減の 44 億円、経常利益は前期比 24 億円減の 61 億円、当期純利益は前期比 29 億円減の 34 億円となりました。

【参考1】 個別決算概要(経営成績)について

(単位:億円)

区 分		H26/3 期 実績 (A)	H25/3 期 実績 (B)	増減	
				(A)-(B)	$\frac{(A)-(B)}{(B)}$ %
営業収益	高速道路事業	8,268	6,702	1,566	23.4
	料金収入	6,055	5,854	200	3.4
	道路資産完成高	2,204	836	1,368	163.6
	その他	8	11	▲ 3	▲ 27.4
	関連事業	247	284	▲ 37	▲ 13.1
	SA・PA事業	105	103	1	1.1
	その他の事業	142	180	▲ 38	▲ 21.3
		8,515	6,986	1,528	21.9
営業費用	高速道路事業	8,284	6,696	1,588	23.7
	道路資産賃借料	4,263	4,092	171	4.2
	管理費用	1,785	1,767	17	1.0
	道路資産完成原価	2,235	836	1,398	167.3
	関連事業	225	266	▲ 41	▲ 15.5
	SA・PA事業	69	65	4	6.5
	その他の事業	155	201	▲ 45	▲ 22.7
		8,510	6,963	1,546	22.2
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	▲ 16	5	▲ 22	-
	関連事業	21	17	3	22.7
		5	23	▲ 18	▲ 78.2
経常利益		19	91	▲ 71	▲ 78.6
当期純利益(損失▲)		▲ 5	60	▲ 65	-

【参考2】 連結貸借対照表

(単位:億円)

	H26/3 期末	H25/3 期末	増減	主な増減内訳								
連結資産	9,295	8,799	496	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現預金等の増 335</li> <li>・仕掛道路資産の増 51</li> <li style="padding-left: 20px;">〔 高速道路建設投資 2,286 完成道路資産の引渡し ▲2,235 〕</li> <li>・設備投資 300</li> <li>・減価償却費 ▲208</li> </ul>								
連結負債	7,702	7,143	558	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速道路建設投資未払金の増 263</li> <li>・道路資産賃借料未払金の増 157</li> <li>・未認識退職給付債務の認識(会計基準改正)110</li> <li>・道路建設関係有利子負債の増 50</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px; width: 100%;"> <thead> <tr> <th>期首</th> <th>調達</th> <th>機構引渡</th> <th>期末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,504</td> <td>2,300</td> <td>▲2,250</td> <td>4,554</td> </tr> </tbody> </table>	期首	調達	機構引渡	期末	4,504	2,300	▲2,250	4,554
期首	調達	機構引渡	期末									
4,504	2,300	▲2,250	4,554									
連結 純資産	1,593	1,655	▲ 62	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当期純利益 34</li> <li>・退職給付に係る調整累計額(会計基準改正) ▲110</li> </ul>								
自己資本 比率	17.1%	18.7%	▲1.6%									

### 【参考3】 連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	H26/3 期	主な増減内訳
営業キャッシュフロー	575	
(道路建設投資)	(152)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速道路建設投資 ▲2,286</li> <li>・高速道路建設投資未払金の増 263</li> <li>・完成道路資産の引渡し 2,235</li> <li>・道路完成高未収入金の増 ▲59</li> </ul>
(その他)	(423)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金等調整前当期純利益 68</li> <li>・減価償却費 208</li> <li>・道路資産賃借料未払金の増 157</li> </ul>
投資キャッシュフロー	▲ 270	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定資産の取得による支出 ▲292</li> </ul>
財務キャッシュフロー	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規社債・借入による資金調達 2,300</li> <li>・社債・借入金の機構引渡し ▲2,250</li> </ul>
現金及び現金同等物の 期首残高	1,102	
現金及び現金同等物の 増減額	336	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規連結に伴う増加額 12 を含む</li> </ul>
現金及び現金同等物の 期末残高	1,439	

#### 【道路会社のキャッシュフロー計算書について】

- ・高速道路への建設投資は、道路会社にとって機構に対する「商品」のため、投資額は『営業活動CF』のマイナスに整理し、これに見合う資金は社債・借入金により調達するため『財務活動CF』のプラスとしています。
- ・高速道路が開通し、道路資産及び社債・借入金を機構に引き渡す際に、道路資産完成高を『営業活動CF』のプラス、社債・借入金の引渡額を『財務活動CF』のマイナスとしています。
- ・従って、高速道路への投資額が道路資産完成高を上回る決算期において、『営業活動CF』がマイナスとなる場合があります。

【参考4】平成27年3月期業績予想

(単位:億円)

区 分		連結			個別
		H27/3 期 予想 (A)	H26/3 期 実績 (B)	増減 (A)-(B)	H27/3 期 予想
営業収益	高速道路事業	9,490	8,287	1,203	9,490
	うち料金収入	6,599	6,053	545	6,599
	うち道路資産完成高	2,890	2,204	686	2,890
	関連事業	564	578	▲ 14	229
	うちSA・PA事業	344	347	▲ 3	105
計		10,054	8,866	1,188	9,719
営業利益 (損失▲)	高速道路事業	5	▲ 11	16	5
	関連事業	42	56	▲ 13	11
	計	48	44	3	16
経常利益		50	61	▲ 11	11
当期純利益		31	34	▲ 3	7

- ・高速道路料金収入は、料金割引額の縮小などの影響により、前期比 545 億円増の 6,599 億円を見込んでいます。
- ・道路資産完成高は、四国横断自動車道(徳島インターチェンジ～鳴門ジャンクション)11km、東九州自動車道(行橋インターチェンジ～みやこ豊津インターチェンジ)7kmの新規開通などを予定しており、前期比 686 億円増の 2,890 億円を見込んでいます。
- ・高速道路事業の営業利益は、前期比 16 億円増の 5 億円を見込んでいます。増益の主な要因は、平成 26 年 3 月期に利益剰余金活用事業を実施したことによります。
- ・関連事業の営業収益は、主に受託事業の減少により、前期比 14 億円減の 564 億円を見込んでいます。
- ・関連事業の営業利益は、SA・PA店舗改修に伴う費用の増加などを見込んだため、前期比 13 億円減の 42 億円を見込んでいます。